

2025年度（2026年2月期） 決算説明資料

2026年4月3日

株式会社瑞光

- 1** 2025年度の決算概要
- 2** 2026年度の業績予想・株主還元
- 3** 第4次中期経営計画の進捗
- 4** 成長に向けた取り組み



2025年度の決算概要

1. 業績サマリ

- 売上211.7億円は前期比6.1%増加したものの、第4四半期で工番進捗が遅延したため、当初計画220億円に対して未達
- 海外顧客向けに受注した新機種機械の納期が長期化することにより、材料費・人工等のコストが増加
- 当期利益1,972百万円には、ユニチカSL事業譲受に伴う特別利益1,925百万円が寄与

(単位：百万円)	2023年度		2024年度		2025年度				(参考)
	金額	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比		当初計画 (金額)
							増減額	増減率	
売上高	21,737	19,950	100.0%	▲8.2%	21,170	100.0%	+1,219	+6.1%	22,000
売上総利益	4,605	2,634	13.2%	▲42.8%	3,204	15.1%	+570	+21.6%	3,960
販売費及び一般管理費	3,577	2,934	14.7%	▲18.0%	3,042	14.4%	+107	+3.7%	2,960
営業利益	1,027	▲300	▲1.5%	—	162	0.8%	+462	—	1,000
経常利益	1,427	▲142	▲0.7%	—	350	1.7%	+493	—	1,050
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,378	▲778	▲3.9%	—	1,972	9.3%	+2,751	—	820
1株当たり当期純利益	52.23円	▲29.41円	—	▲156.3%	74.51円	—	+103.92円	—	30.98円
設備投資額	373	767	—	+105.4%	374	—	▲393	▲51.3%	
減価償却費	930	851	—	▲8.5%	884	—	+33	+4.0%	
ROE	4.1%	▲2.3%	—	—	+5.6%	—	—	—	

利益率計画18%

2. 売上の推移（地域別）

- 中国・日本向けの売上が前期比回復。日本向けの売上にスパンレース事業約5億円（1月1日～2月20日分）を含む
- アジア向けの売上34億円は価格競争もあり減少（2020年度～2024年度の5ヶ年平均54億円）
- 欧州向けの売上53億円はDELTA効果もあり増加（2020年度～2024年度の5ヶ年平均27億円）

▲：前年度と比較して増加
 ▼：前年度と比較して減少

(単位：百万円)	2023年度		2024年度			2025年度			
	金額	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
								増減額	増減率
日本	4,718 ▼ ▲13.0%	3,828	19.2%	▼ ▲18.9%	5,821	27.5%	+1,993 ▲	+52.1%	
中国	5,816 ▼ ▲39.1%	3,506	17.6%	▼ ▲39.7%	4,357	20.6%	+850 ▲	+24.3%	
アジア	5,061 ▼ ▲22.4%	6,102	30.6%	▲ +20.6%	3,392	16.0%	▲ 2,709 ▼	▲44.4%	
欧州	2,792 ▲ +6.5%	3,013	15.1%	▲ +7.9%	5,330	25.2%	+2,316 ▲	+76.9%	
北米	1,160 ▲ +1.3%	722	3.6%	▼ ▲37.8%	532	2.5%	▲ 189 ▼	▲26.3%	
中南米	1,796 ▲ +47.7%	2,194	11.0%	▲ +22.1%	466	2.2%	▲ 1,727 ▼	▲78.7%	
その他 ※	391 ▲ +1180.0%	582	2.9%	▲ +48.9%	1,268	6.0%	+685 ▲	+117.8%	
合計	21,737 ▲ ▲18.0%	19,950	100.0%	▲ ▲8.2%	21,170	100.0%	+1,219	+6.1%	

※「その他」の主はエジプト向け

3. 売上の推移（製品の種別別）

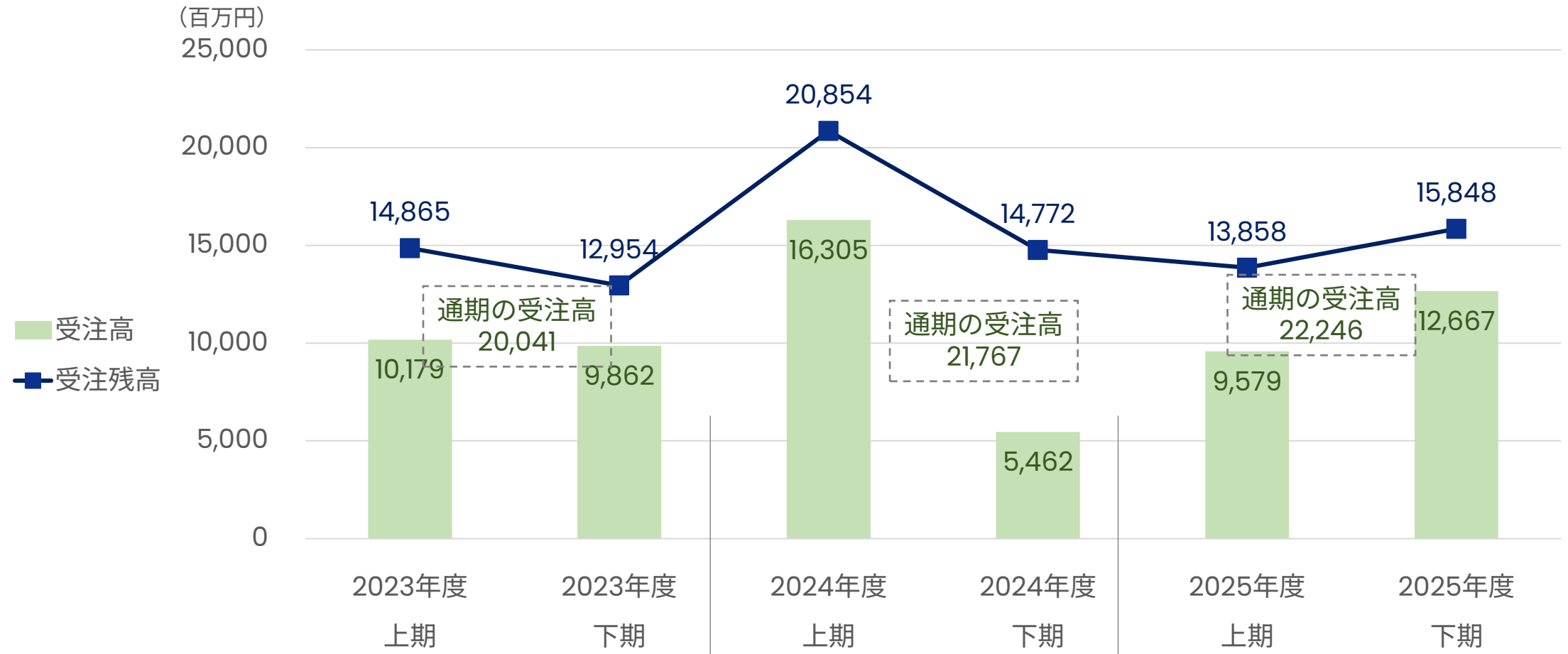
- 生理用ナプキン製造機械33億円（2020～2022年度平均35億円 ⇒2023年度～2025年度平均34億円・・・横這い）
- 小児用紙おむつ製造機械69億円（2020～2022年度平均103億円⇒2023年度～2025年度平均61億円・・・約4割減少）
- 大人用紙おむつ製造機械75億円（2020～2022年度平均63億円 ⇒2023年度～2025年度平均80億円・・・約3割増加）
- 「その他」はспанレース事業約5億円を含む

▲：前年度と比較して増加
 ▼：前年度と比較して減少

(単位：百万円)	2023年度		2024年度			2025年度			
	金額	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
								増減額	増減率
生理用ナプキン製造機械	3,815	▼ ▲0.2%	3,109	15.6%	▼ ▲18.5%	3,286	15.5%	+177	▲ +5.7%
小児用紙おむつ製造機械	4,586	▼ ▲55.2%	6,870	34.4%	▲ +49.8%	6,891	32.6%	+20	▲ +0.3%
大人用紙おむつ製造機械	10,156	▲ +18.9%	6,369	31.9%	▼ ▲37.3%	7,518	35.5%	+1,148	▲ +18.0%
その他機械	748	▼ ▲42.1%	398	2.0%	▼ ▲46.7%	135	0.6%	▲ 263	▼ ▲66.1%
部品	2,237	▲ +1.4%	2,809	14.1%	▲ +25.5%	2,445	11.6%	▲ 363	▼ ▲13.0%
その他	193	▼ ▲53.2%	393	2.0%	▲ +103.3%	893	4.2%	+500	▲ +127.2%
合計	21,737	▲ +18.0%	19,950	100.0%	▲ +8.2%	21,170	100.0%	+1,219	▲ +6.1%

4. 受注動向

- 2025年度末時点の受注残高は15,848百万円（スパンレース事業は除く）。
- 2025年度の受注高は22,246百万円。2023年度20,041百万円をボトムにしてほぼ横這い。



4. 受注動向（製品の種類別）

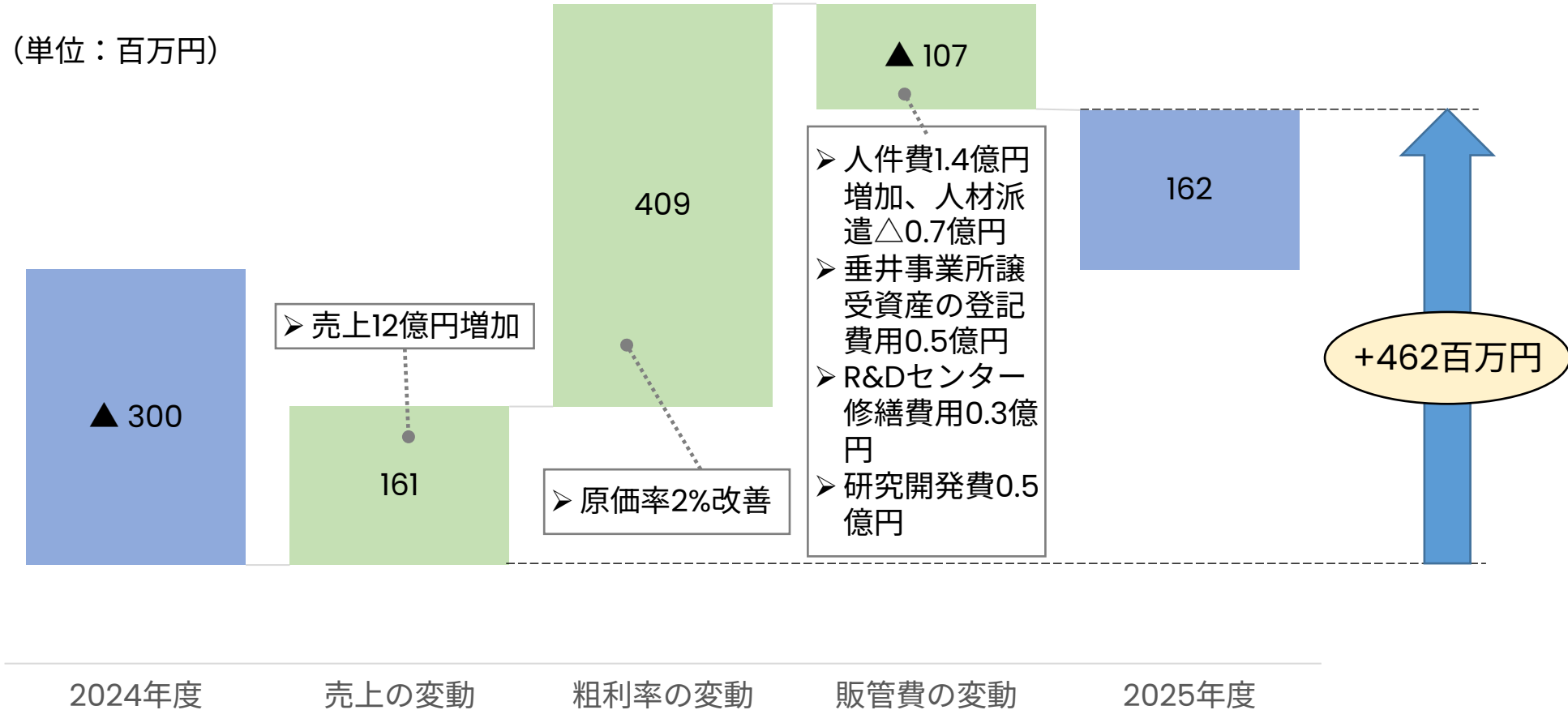
受注高 (単位：百万円)	2023年度		2024年度			2025年度			
	金額	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
								増減額	増減率
生理用ナプキン製造機械	3,189	+20.7%	3,564	16.4%	+11.8%	3,055	13.7%	▲ 508	▲14.3%
小児用紙おむつ製造機械	7,441	+54.1%	9,215	42.3%	+23.8%	6,329	28.5%	▲ 2,885	▲31.3%
大人用紙おむつ製造機械	6,327	▲48.8%	6,128	28.2%	▲3.1%	7,441	33.4%	+1,312	+21.4%
その他機械	652	▲47.8%	▲ 342	-1.6%	▲152.5%	※ 2,081	9.4%	+2,423	▲707.5%
部品	2,237	+1.4%	2,809	12.9%	+25.5%	2,445	11.0%	▲ 363	▲13.0%
その他	193	▲53.2%	393	1.8%	+103.3%	893	4.0%	+500	+127.2%
合計	20,041	▲15.5%	21,767	100.0%	+8.6%	22,246	100.0%	+478	+2.2%

受注残高 (単位：百万円)	2023年度		2024年度			2025年度			
	金額	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
								増減額	増減率
生理用ナプキン製造機械	1,406	▲30.8%	1,860	12.6%	+32.3%	1,629	10.3%	▲ 231	▲12.4%
小児用紙おむつ製造機械	5,213	+146.9%	7,557	51.2%	+45.0%	6,996	44.1%	▲ 561	▲7.4%
大人用紙おむつ製造機械	5,501	▲41.0%	5,260	35.6%	▲4.4%	5,183	32.7%	▲ 77	▲1.5%
その他機械	834	▲29.0%	92	0.6%	▲88.9%	※ 2,038	12.9%	+1,945	+2093.5%
合計	12,954	▲11.6%	14,772	100.0%	+14.0%	15,848	100.0%	+1,076	+7.3%

※「その他機械」に防護服を含む

5. 営業利益の増減要因（前期比）

- 売上増加（12億円）と原価率低減（2%改善）により、売上総利益が561百万円の増加。
- 販管費91百万円増加ながら、売上総利益増加により営業利益は黒字転換。



6. 営業外損益・特別損益

(単位：百万円)		2024年度	2025年度	増減額
営業外 収益	受取利息	191	121	▲ 69
	受取配当金	16	15	▲ 1
	為替差益	—	50	50
	その他の営業外収益	104	82	▲ 21
営業外 費用	支払利息	24	42	18
	社債利息	24	18	▲ 5
	持分法による投資損失	0	17	17
	為替差損	92	—	▲ 92
	その他の営業外費用	13	3	▲ 10
特別 利益	固定資産売却益	0	0	0
	投資有価証券売却益	628	0	▲ 628
	補助金収入	—	1,770	1,770
	負ののれん発生益	—	1,925	1,925
特別 損失	固定資産除売却損	10	1	▲ 9
	固定資産圧縮損	—	1,770	1,770
	固定資産減損損失	—	95	95
	訴訟和解金	—	127	127

ユニチカSL事業譲受資産の内、経産省補助金対象設備への補助金の承継

ユニチカSL事業譲受に伴う特別利益

上記補助金対象設備の圧縮記帳

DELTAでの裁判に関する和解金
(買収前の事象)

7. 貸借対照表



(単位：百万円)	2024年度末		2025年度末		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比増減額
流動資産	35,462	67.7%	32,702	62.4%	▲ 2,760
現金及び預金	15,324	29.2%	13,403	25.6%	▲ 1,921
売上債権	11,658	22.2%	10,552	20.1%	▲ 1,105
棚卸資産	6,787	12.9%	7,504	14.3%	+716
その他流動資産	1,691	3.2%	1,241	2.4%	▲ 449
固定資産	16,954	32.3%	19,738	37.6%	+2,783
有形固定資産	15,489	29.6%	17,537	33.4%	+2,047
無形固定資産	653	1.2%	620	1.2%	▲ 32
投資その他の資産	811	1.5%	1,579	3.0%	+768
資産合計	52,416	100.0%	52,440	100.0%	+23
負債	18,116	34.6%	16,116	30.7%	▲ 1,999
仕入債務	4,202	8.0%	3,235	6.2%	▲ 967
有利子負債	7,572	14.4%	6,225	11.9%	▲ 1,346
契約負債・前受金	3,641	6.9%	3,155	6.0%	▲ 486
その他負債	2,699	5.1%	3,500	6.7%	+800
純資産	34,300	65.4%	36,324	69.3%	+2,023
負債純資産合計	52,416	100.0%	52,440	100.0%	+23

- ▶ スパノール事業譲受▲4億円(補助金との差額)
- ▶ PROGA ZUIKO出資▲6億円
- ▶ 有利子負債減少(社債返済と新規銀行借入)の差額▲10億円

- ▶ 工事進行基準契約資産▲16億円
- ▶ スパノール事業約5億円

- ▶ スパノール事業約7億円

- ▶ スパノール事業譲受による垂井事業所資産の増加約24億円

- ▶ 投資有価証券の増加 (PZ出資金6億円)

- ▶ 買掛金▲10億円
- ▶ 契約負債▲5億円

- ▶ 負ののれんに対する繰延税金負債約8億円

	2024年度	2025年度
DEレシオ	0.22倍	0.17倍
自己資本比率	65.3%	69.1%

8. キャッシュ・フロー

- 営業CFは1,132百万円の収入。 ■ 新規事業投資資金を定期預金の取り崩しで賄い、投資CFは265百万円。
- 社債償還資金50億円を銀行調達40億円と手元資金10億円で対応、財務CFは▲1,710百万円。

(単位：百万円)	2024年度	2025年度	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,092	1,132	39
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,136	265	▲ 871
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 773	▲ 1,710	▲ 936
現金及び現金同等物の増減額	1,808	▲ 332	▲ 2,140
現金及び現金同等物の期末残高	9,732	9,400	▲ 332
フリー・キャッシュ・フロー	2,229	1,397	▲ 831

当期のキャッシュ・フローの主な内訳

営業キャッシュ・フロー

- 税金等調整前当期純利益：2,051
- 負ののれん発生益：▲1,925
- 減価償却費：884

投資キャッシュ・フロー

- 定期預金の減少：1,629
- スパンレース事業資金：▲2,150
- 同事業の補助金：1,770
- 防護服事業出資金：▲597
- 有形固定資産取得：▲368

財務キャッシュ・フロー

- 配当金の支払い：▲291
- 長期借入金約定返済：▲367
- 社債償還：▲5,000
- 新規長期借入金：4,000



2026年度の業績予想・株主還元

1. 業績予想
2. 株主還元

1. 業績予想

- 売上は中期計画通り270億円（内新規事業50億円）、営業利益17.8億円を計画。
- 売上総利益率19%まで回復を目指す。一方で、イラン情勢のコストアップ影響は不確定要素として折り込まず。

(単位：円)	2025年度実績		2026年度業績予想			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	21,170	100.0%	27,000	100.0%	+5,830	+27.5%
売上総利益	3,210	15.2%	5,180	19.2%	+1,970	+61.4%
販売費及び一般管理費	3,042	14.4%	3,400	12.6%	+358	+11.8%
営業利益	168	0.8%	1,780	6.6%	+1,612	+959.5%
経常利益	355	1.7%	1,820	6.7%	+1,465	+412.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,976	9.3%	1,280	4.7%	▲ 696	▲ 35.2%
1株当たり当期純利益	74.65円	—	49.23円	—	▲ 25.42円	▲ 34.1%

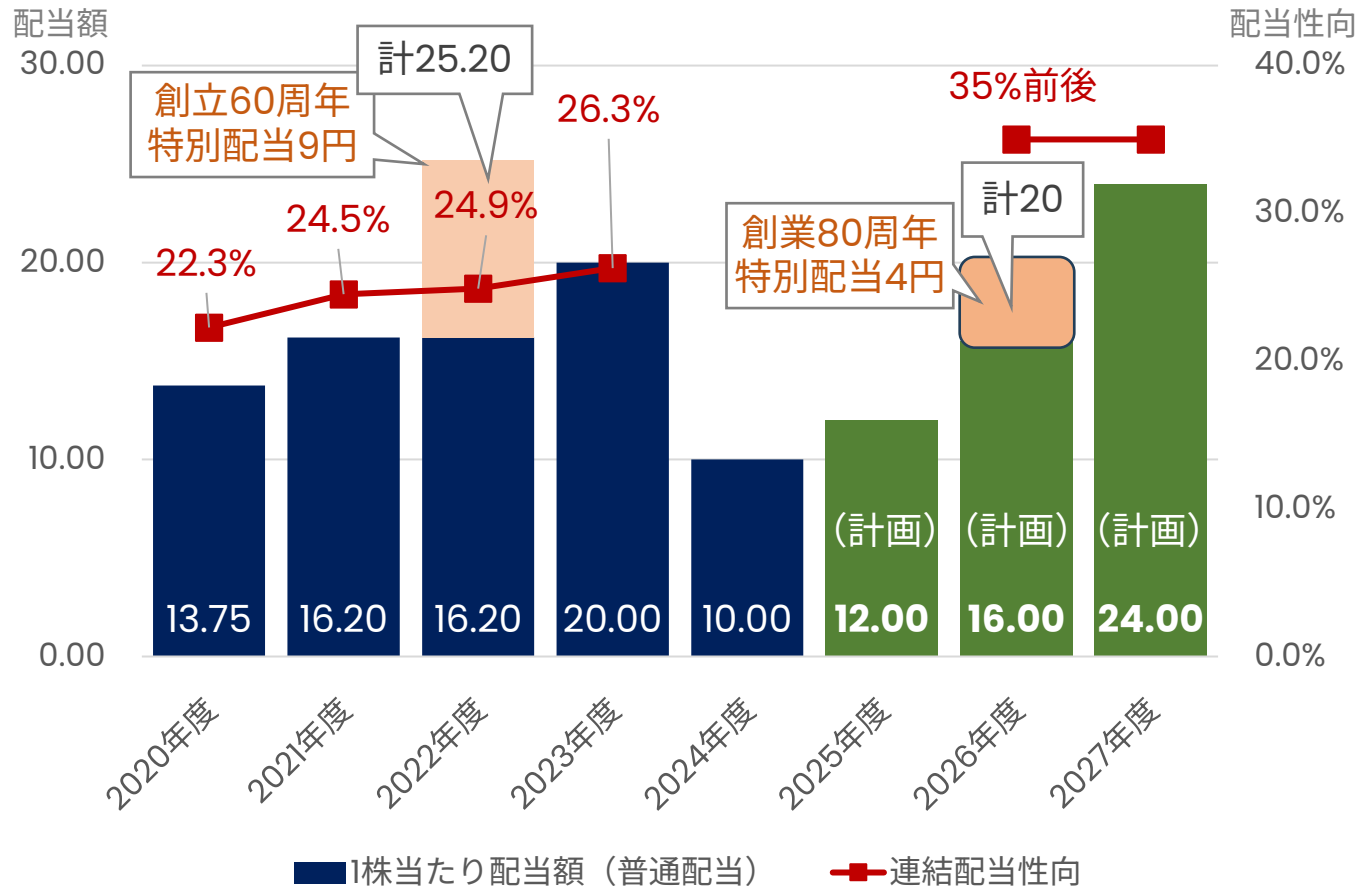
- 国内、中国向けが堅調
- DELTAの売上が貢献
- スパンレース事業、防護服事業の新規事業が寄与

- 海外顧客向け新機種の出荷が完了（現在検収中）
- 部品営業、サービス営業の強化により、利益率確保
- グローバルでの調達
- 出荷リードタイムの適正化

2. 株主還元

- ・連結配当性向をベースに配当水準を決定する基本方針は従来通り。
- ・2026年2月25日に500千株の自己株式を取得。必要に応じて、自己株式の取得を適宜検討する。

【株主還元】



<2026年度の株主還元の方針>
 ➤ 連結配当性向35%前後を目標
 ➤ 2026年度は、創業80周年記念配当4円を加え、20円を予定

3

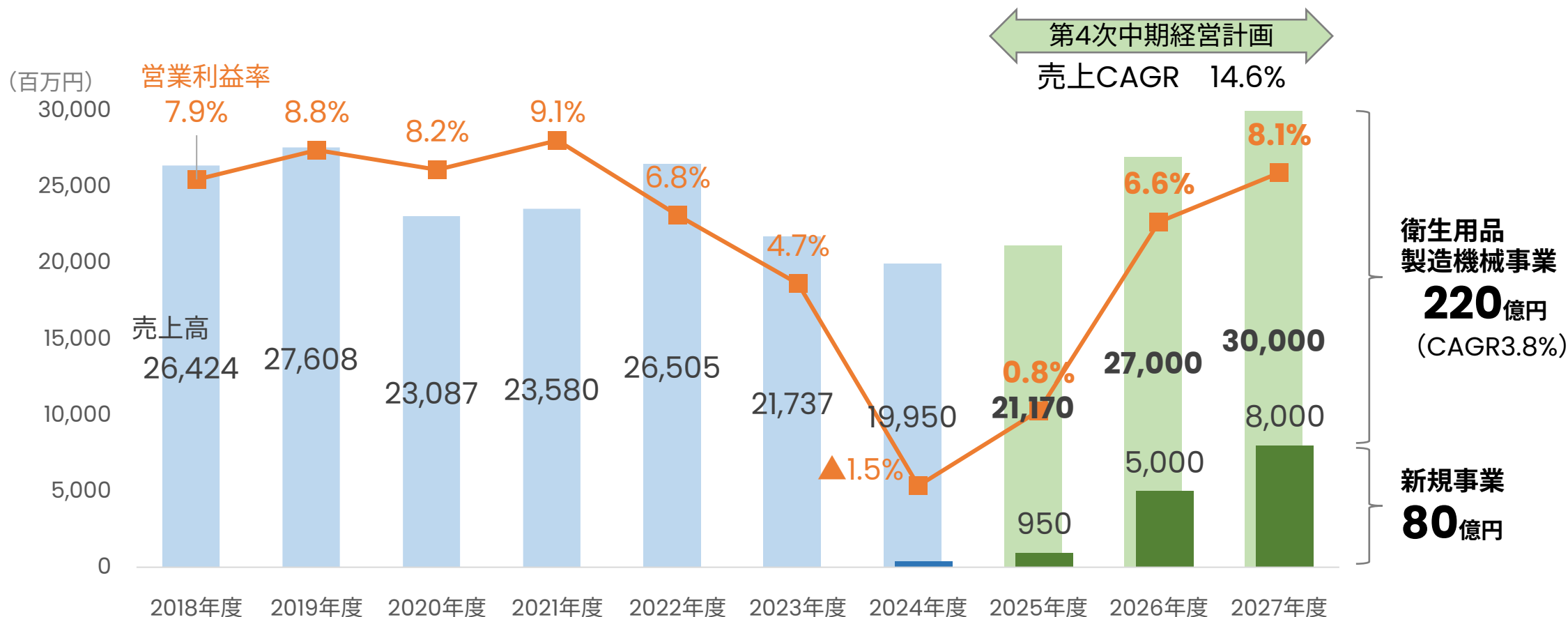
第4次中期経営計画の進捗

1. 業績計画
2. キャッシュ・アロケーションの考え方
3. 最近のトピックス
4. 基本方針と重点戦略
5. 重点戦略①：衛生用品製造機械事業の競争力再生
6. 重点戦略②：新規事業の加速による事業ポートフォリオ拡充
7. 重点戦略③：SPEED & CHALLENGEを実行する組織の整備

1. 業績計画

最終年度である2027年度の売上高は300億円、営業利益率は8.1%を計画。
 衛生用品製造機械事業は売上が横這いと想定し利益率向上に注力する。新規事業は大きく成長を目指す。

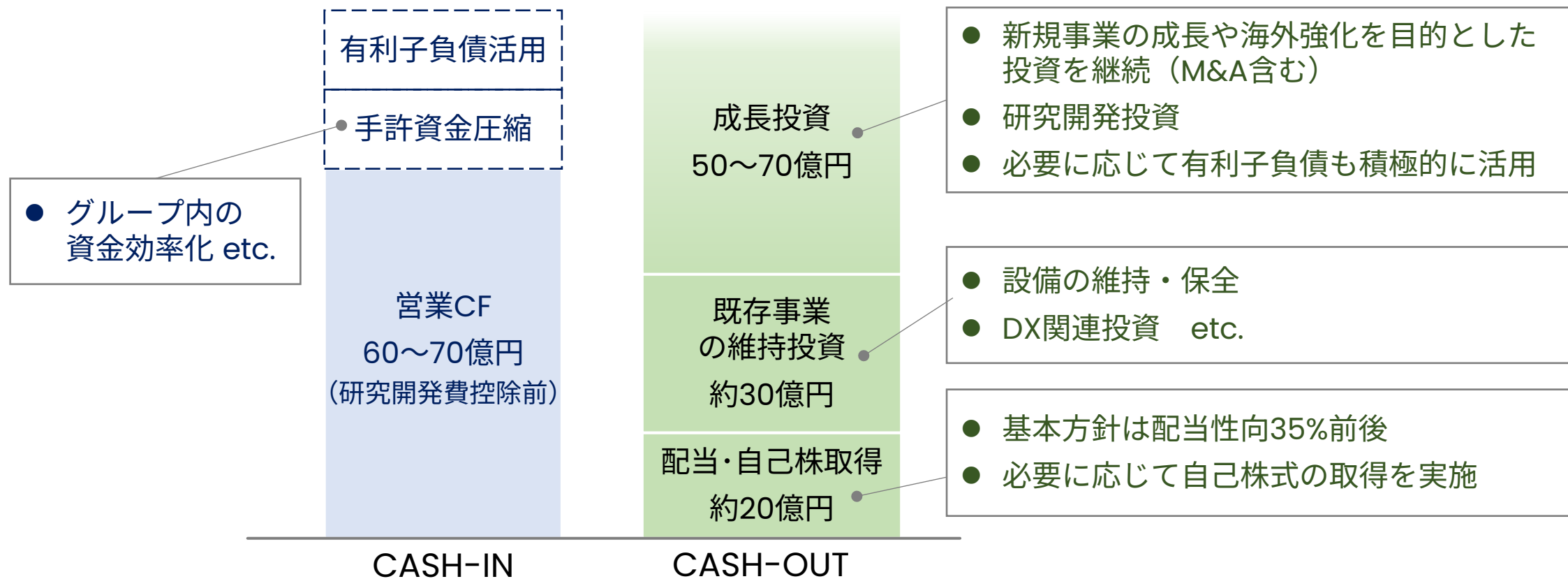
【業績計画】



2. キャッシュ・アロケーションの考え方

新たな収益の柱を構築するため、必要に応じて有利子負債も活用し機動的・積極的に成長投資に取り組む。併せて、配当、自己株式取得を実施し、3ヶ年累計で20億円以上を計画。

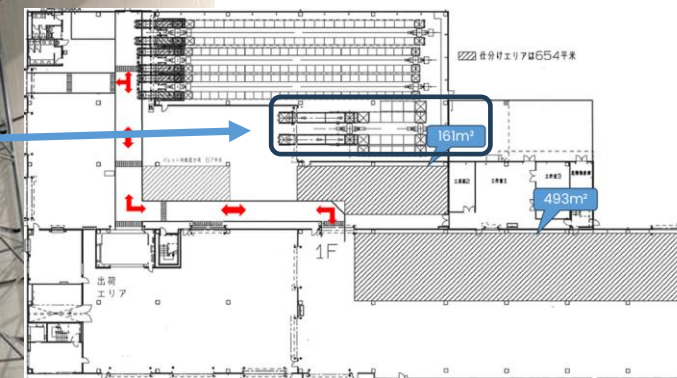
【3ヶ年累計の資金配分の目安】



3. 最近のトピックス (2026年5月1日創業80周年)

ZUIKOは、紙おむつを中心とした衛生用品製造機の開発・設計・製造を一貫して手がける、国内シェア90%世界トップ3に入る衛生用品製造機メーカーです。

創業 **1946** 創業80周年
設立 **1963**
本社従業員数 **400+**
年間生産可能台数 **30**



2026年1月事業譲受したスパンレース事業 (垂井事業所)



4. 基本方針と重点戦略

「衛生用品製造機械事業の競争力再生」と「新規事業の加速による事業ポートフォリオ拡充」にスピード感を持って取組み、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けた事業構造の変革に挑戦する。

【第4次中期経営計画の基本方針】

1946年5月1日創業(本年80年)
1963年4月3日創立(本年63年)

基本方針

~SPEED & CHALLENGE~

重点戦略

①衛生用品製造機械事業
の競争力再生

②新規事業の加速による
事業ポートフォリオ拡充

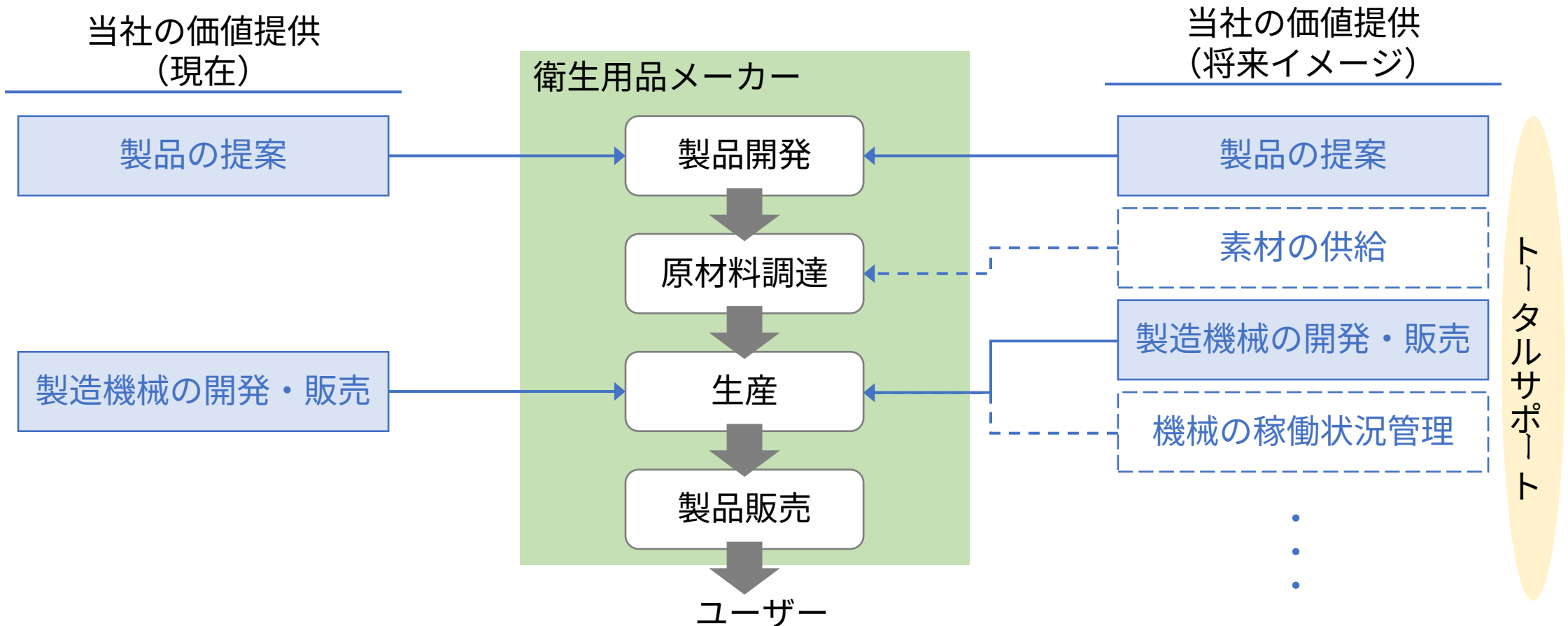
既存の技術や事業領域とのシナジー創出

③SPEED & CHALLENGEを実行する組織の整備

5. 重点戦略①：衛生用品製造機械事業の競争力再生

単なる機械メーカーでは顧客から選ばれない時代にシフトしている。衛生用品メーカーへの価値提供領域を拡大し、衛生用品製造機械だけでなく顧客をトータルサポートできる企業への進化が必要。

【衛生用品製造機械事業の領域拡大】



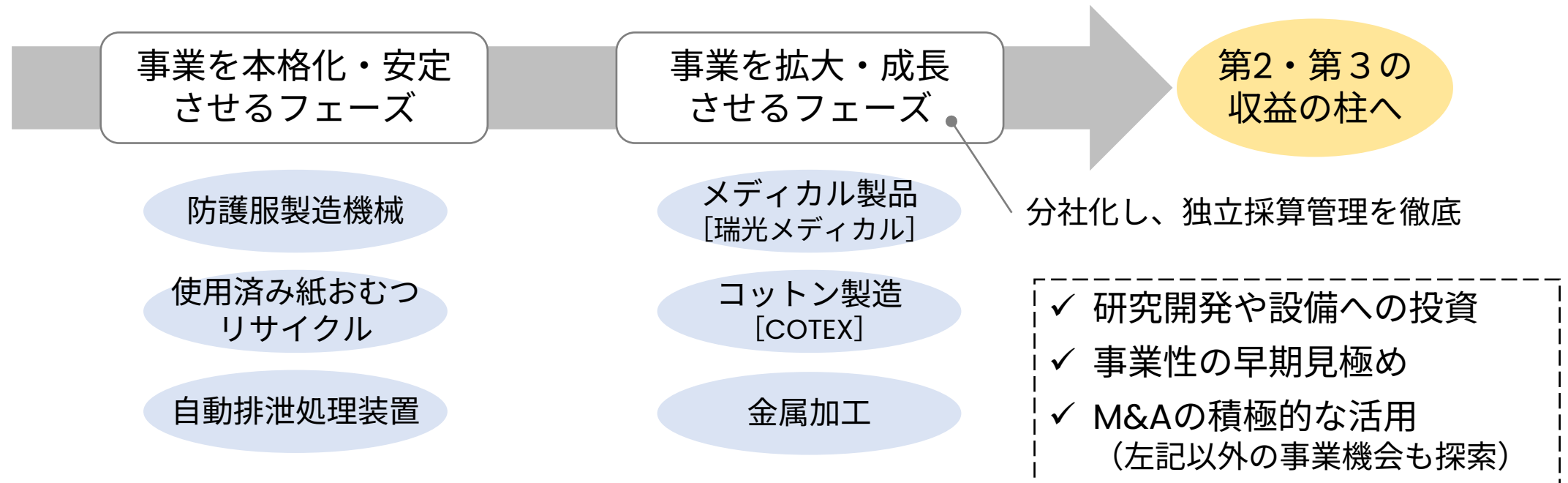
6. 重点戦略②：新規事業の加速による事業ポートフォリオ拡充

既存の技術や事業領域と関連のある事業に取り組み、第2・第3の収益の柱を築くことで持続的な成長の礎とする。また、衛生用品製造機械の売上の変動影響を緩和して安定的な売上獲得（ボラティリティ抑制）を狙う。

【新規事業の加速】

ねらい

- 衛生用品製造機械以外の収益の柱、成長領域を獲得する
- 売上のボラティリティを抑制する（安定的な売上の割合を増やす）



意思決定と実行を加速し、事業領域の拡張を実現

意思決定の迅速化と組織基盤の強化

- ・ 執行役員制度の導入による意思決定の迅速化
- ・ 3部門体制への再編による組織のスリム化
- ・ 営業～開発～生産の連携強化による一体運営
- ・ 人事評価制度の見直し、メリハリのある登用

SPEED & CHALLENGE

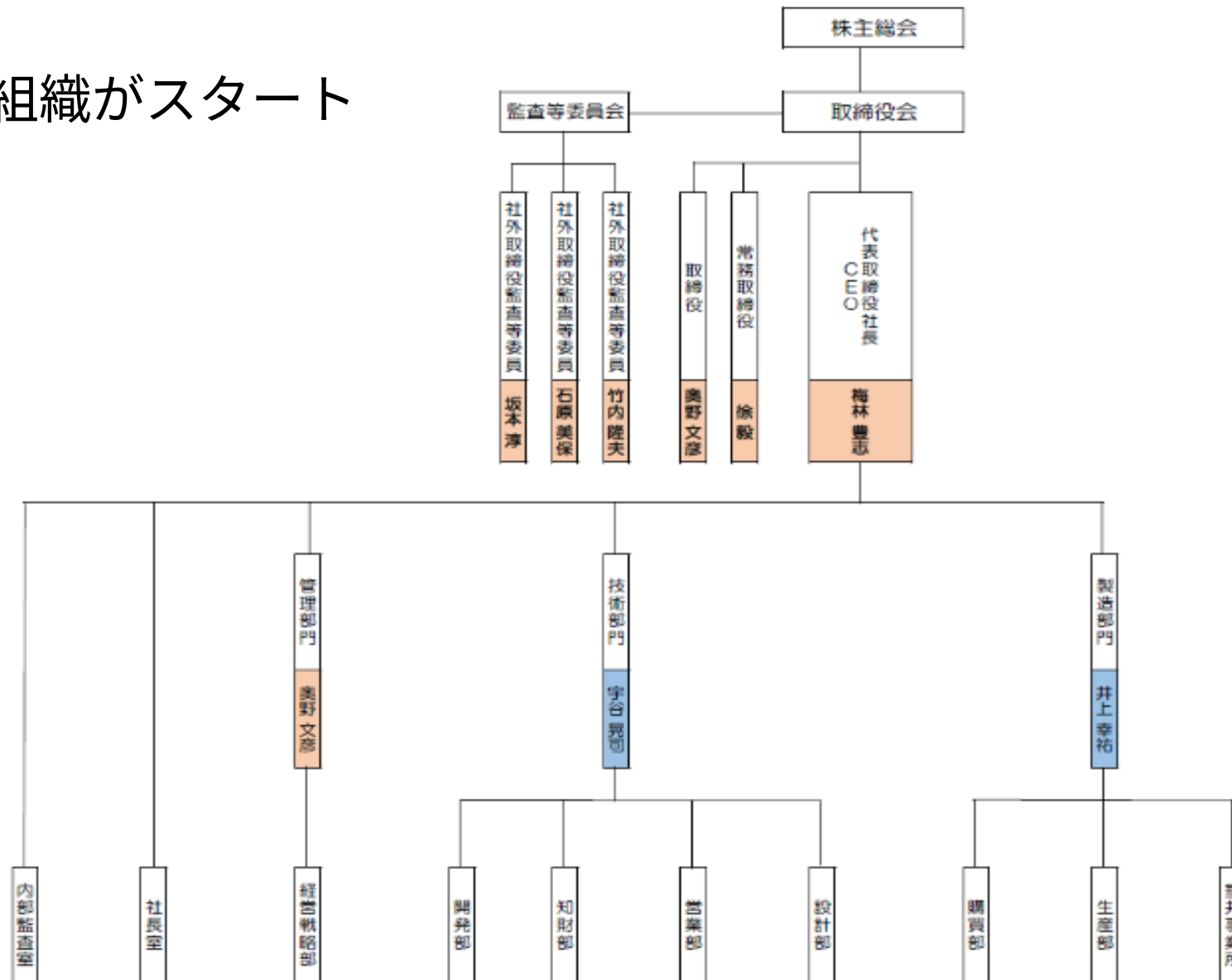
成長領域への人材シフト

- ・ 若手人材を管理職へ積極登用
- ・ 経験豊富な人材を新規事業へ重点配置
- ・ 成長領域へ戦略的な人材シフトを推進
- ・ ジョブローテーションの推進

グローバル一体運営

- ・ 海外エンジニアの活用による役割分担
- ・ 現地生産によるコスト最適化
- ・ 技術交流による品質・技術力の向上
- ・ 国籍・性別にとらわれない人材活用

2月1日より新組織がスタート



サークル活動による社員同士のコミュニケーション強化



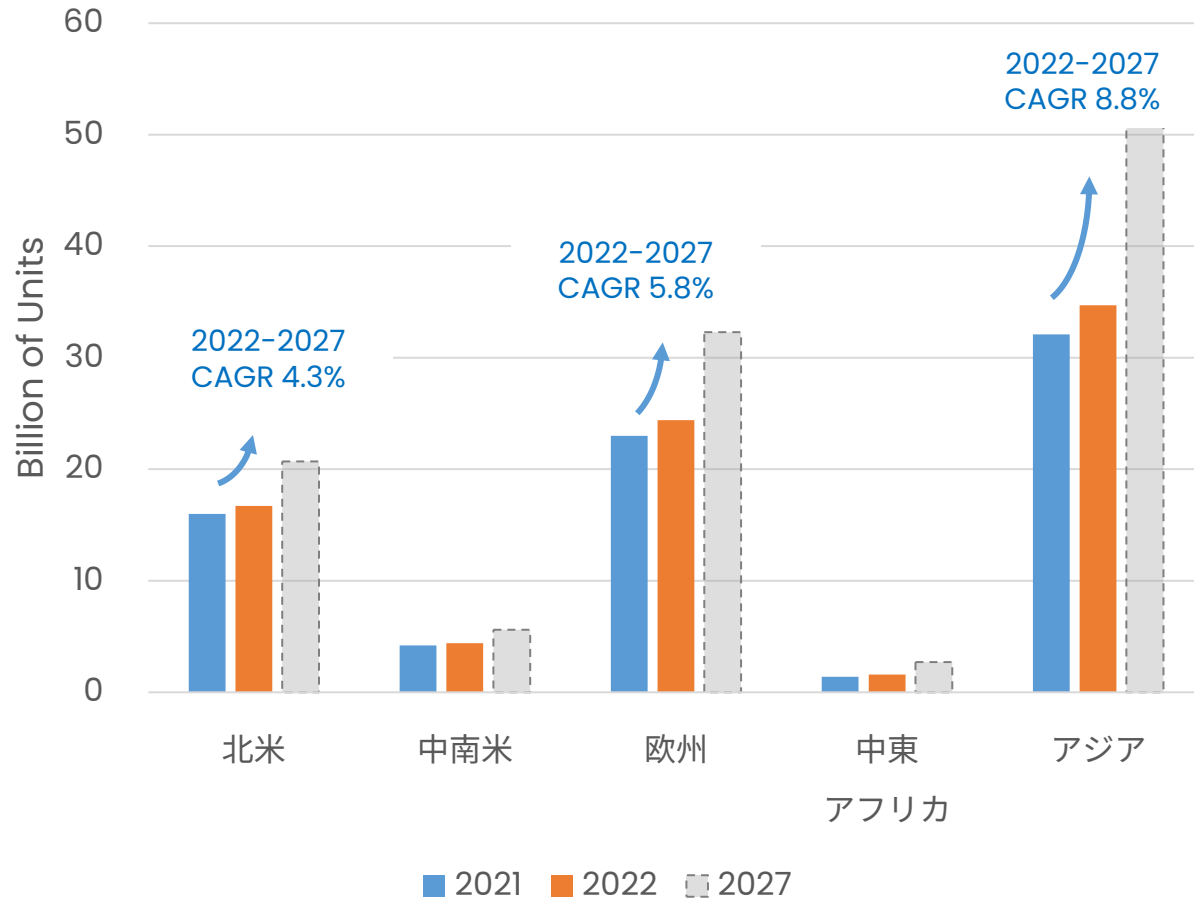
4

成長に向けた取り組み

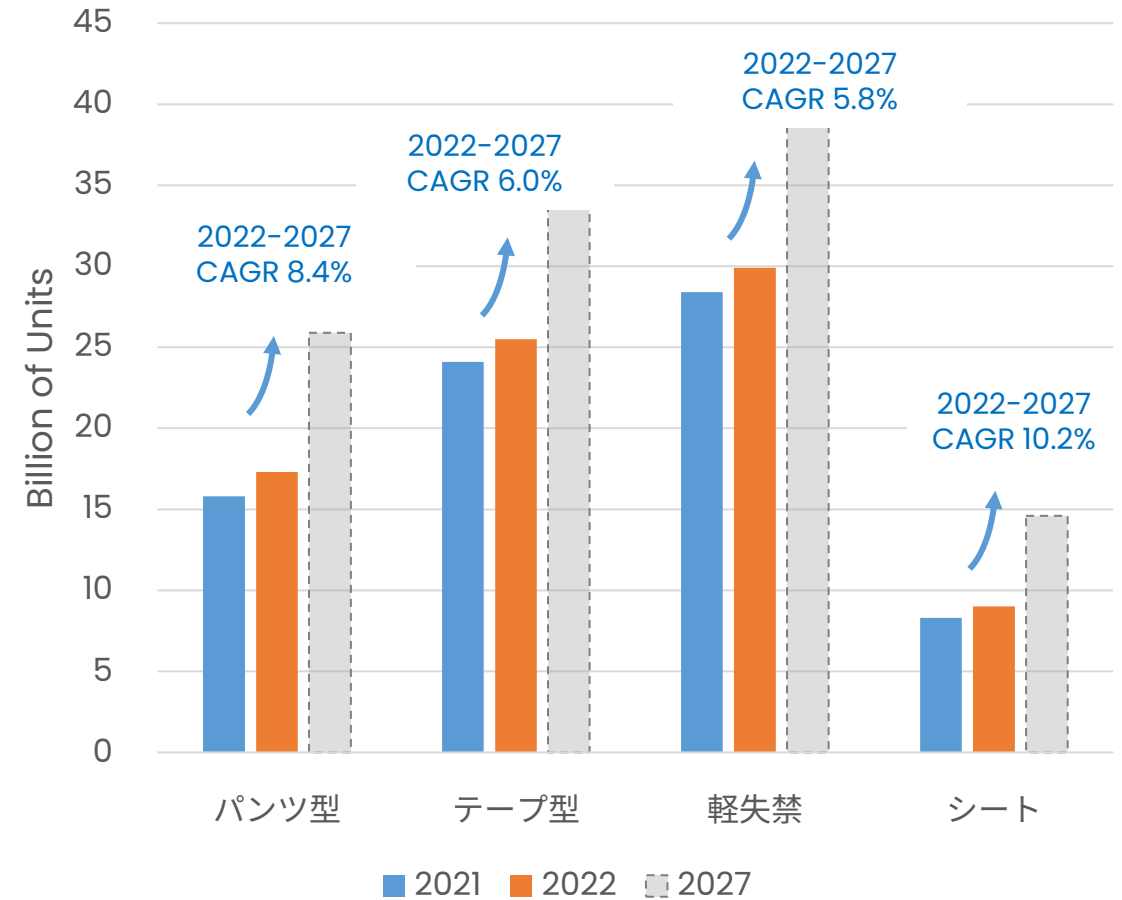
1. 新製品開発
2. サービス事業
3. コットンспанレース事業
4. リサイクル事業
5. 排泄器事業
6. 防護服事業

1. 新製品開発（大人用おむつ製品の成長性）

Global Outlook, 地域別



Global Outlook, 製品別



出典：Price Hanna Consultants 「Global Outlook for Absorbent Hygiene Products and Key Raw Materials」

1-2. 新製品開発 (Multi-Product Machine™)

✓ 改造しやすい設計で、一つのラインで柔軟に対応

尿取りパッド 大人用テープタイプおむつ (欧州・中東仕様) 大人用テープタイプおむつ (アジア仕様)



✓ ベース機に下流工程を追加すれば、パンツ型製品の可能

大人用パンツタイプおむつ



1-3. ベース機は小型化

製造工程の改良により、
通常機械の全長より
30-37%*短くなる。

- 工場スペースを有効に活用
- オペレーターも運転しやすい



*当社通常機械と比較。

1-4. 運搬に最適化

コンテナに入る設計

通常の40-Ft コンテナのみで運搬可能



x 15 ・ 運搬費の削減



・ 現地での運搬も
しやすくなる



2. サービス事業（生産支援などのサービスの事業化）

サービスの強化により、装置販売中心のビジネスモデルから
装置+サービスによる継続収益型ビジネスへの進化を目指します。

サービス施策

定期顧客訪問

- ・設備の定期点検
- ・稼働状況の確認
- ・トラブルの未然防止



予備部品・消耗品の提案

- ・稼働状況に応じた部品交換
- ・安定稼働のための保守提案



改造・アップグレード提案

- ・生産能力向上
- ・品質改善
- ・新機能追加



サービスを含めたビジネスモデル

機械販売

納入

定期顧客訪問

予備部品・改造

期待される効果

- **ストック型収益の拡大**
⇒部品・メンテナンス売上の拡大
- **既存顧客との関係強化**
⇒顧客接点の増加
- **新規ビジネスへの展開**
⇒モジュール販売、システム販売、新規事業との連携

2-2. ターンキーソリューションの実現

当社は製造機単体の提供にとどまらず、付帯設備の選定からライン構築までを一括で提供することで、**顧客が導入後すぐに生産を開始できるターンキーソリューションの提供を推進**

一気通貫のライン構築・立ち上げ支援

製造機+付帯設備



オペレーター教育



グローバル対応



納入後すぐに生産開始

導入ハードルの低減

スタートアップ企業も
安心して導入

顧客層の拡大

新規参入企業への
アプローチ強化

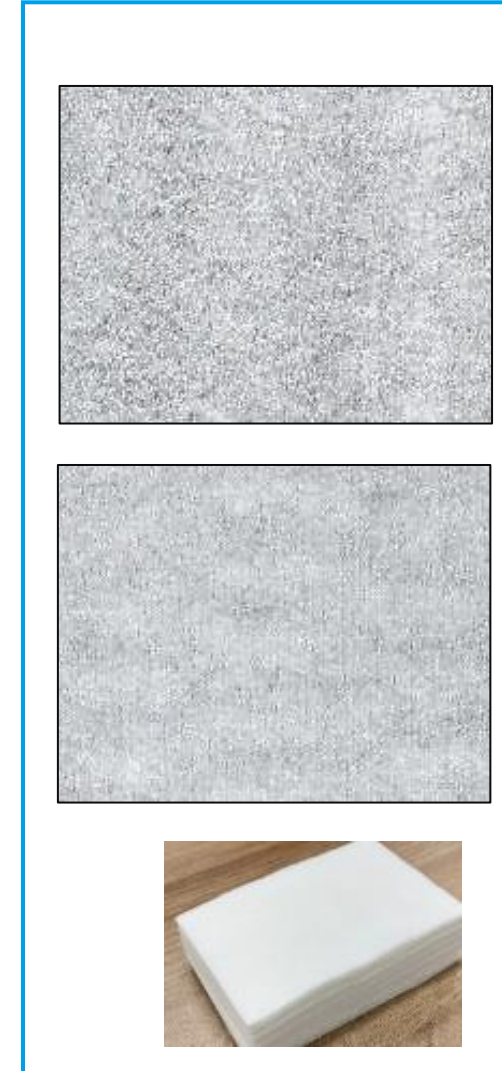
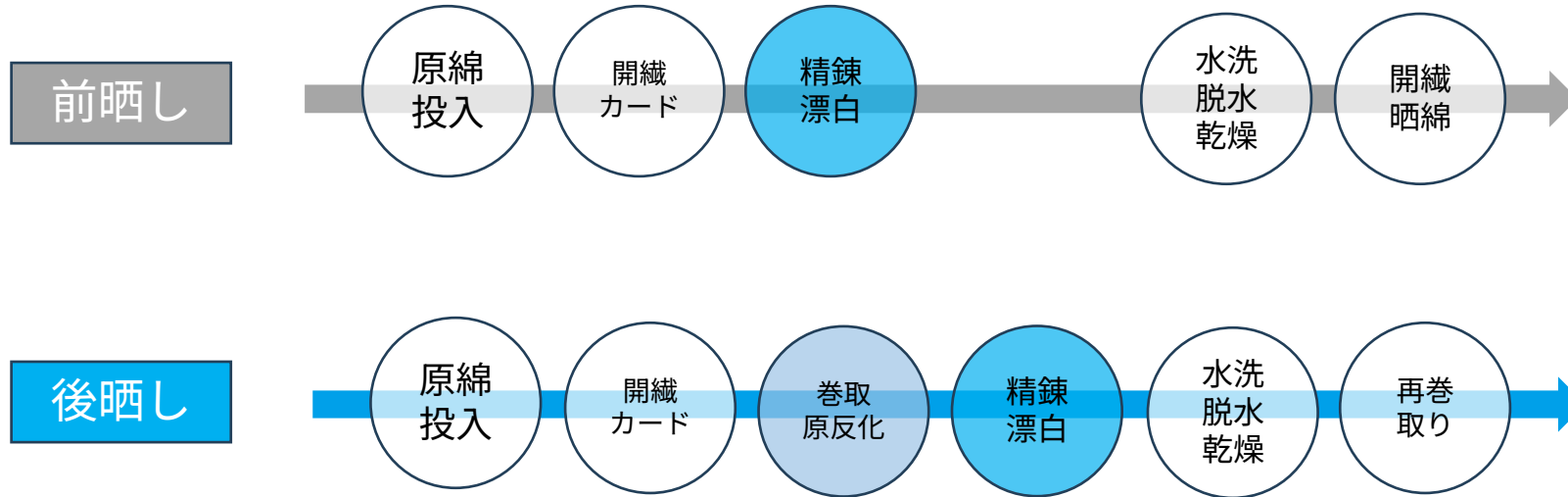
高付加価値化

ライン構築・教育支援で
差別化

3. コットンспанレース事業 (COTEX)



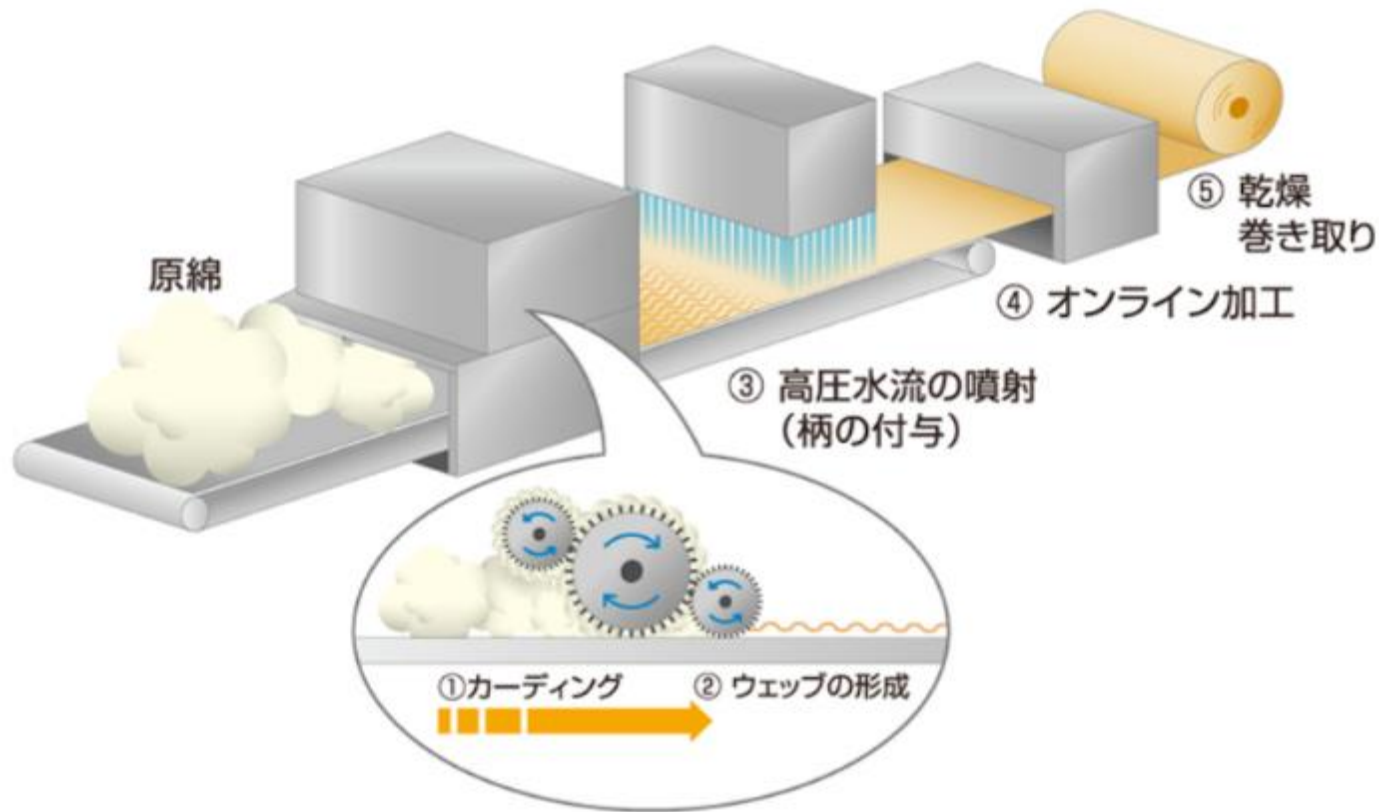
2024年にグループ会社化
良質な晒し綿やコットン製品を製造



綿本来の吸収性とバルキー性が保たれ、しっとりふんわりとやわらかな質感な晒し綿を供給

3-2. コットンспанレース事業 (2026年1月から)

コットンспанレース不織布製造



レイヤー積層

繊維の混合

坪量の変更

ZUIKO designs and builds **MACHINES** for the production of

Baby Diapers

Adult Diaper & Incontinence

Feminine Products

Other Hygiene Products



子供用紙おむつ

大人用失禁製品

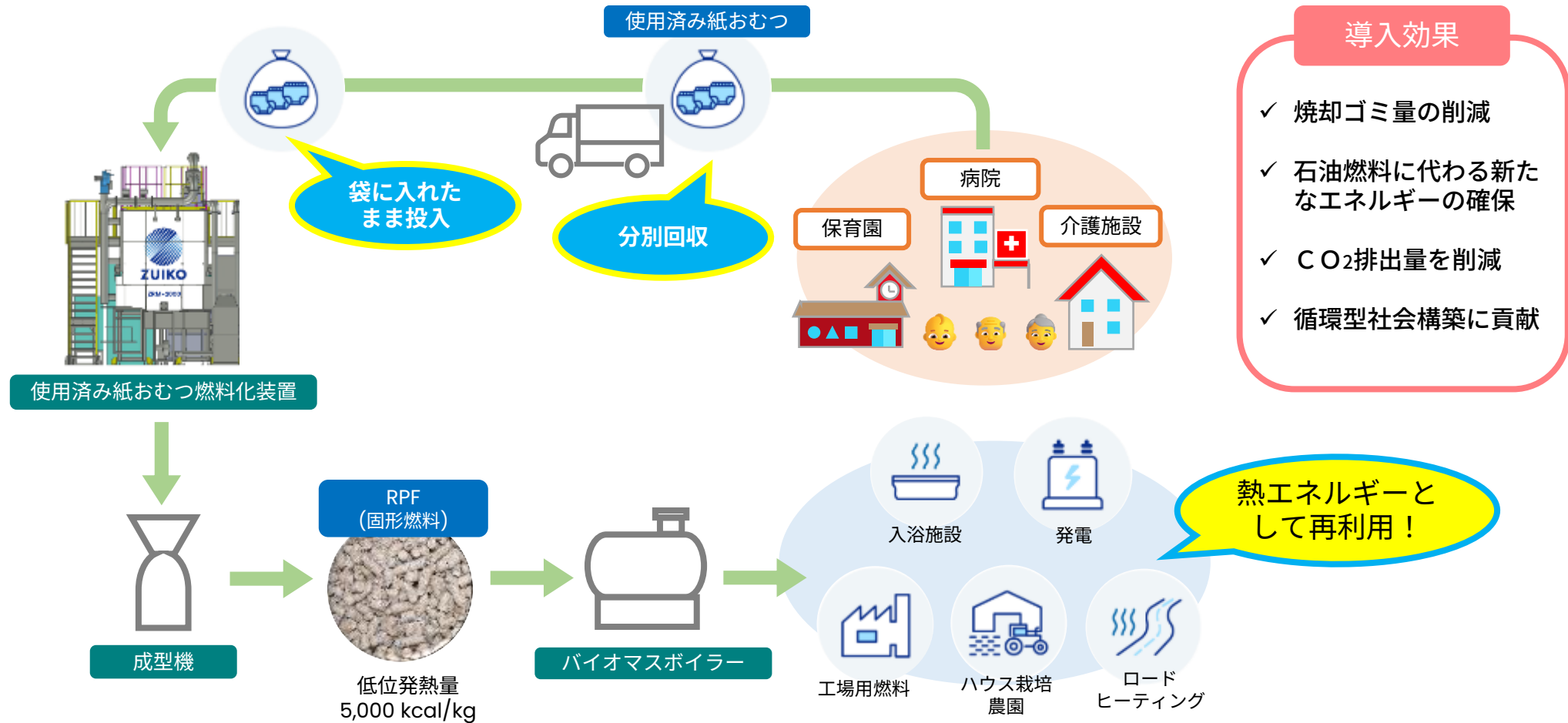
女性用ナプキン

母乳パッドやベッドシート

衛生材料向け装置製造や材料加工に関わるテクノロジーをコットンспанレースで応用

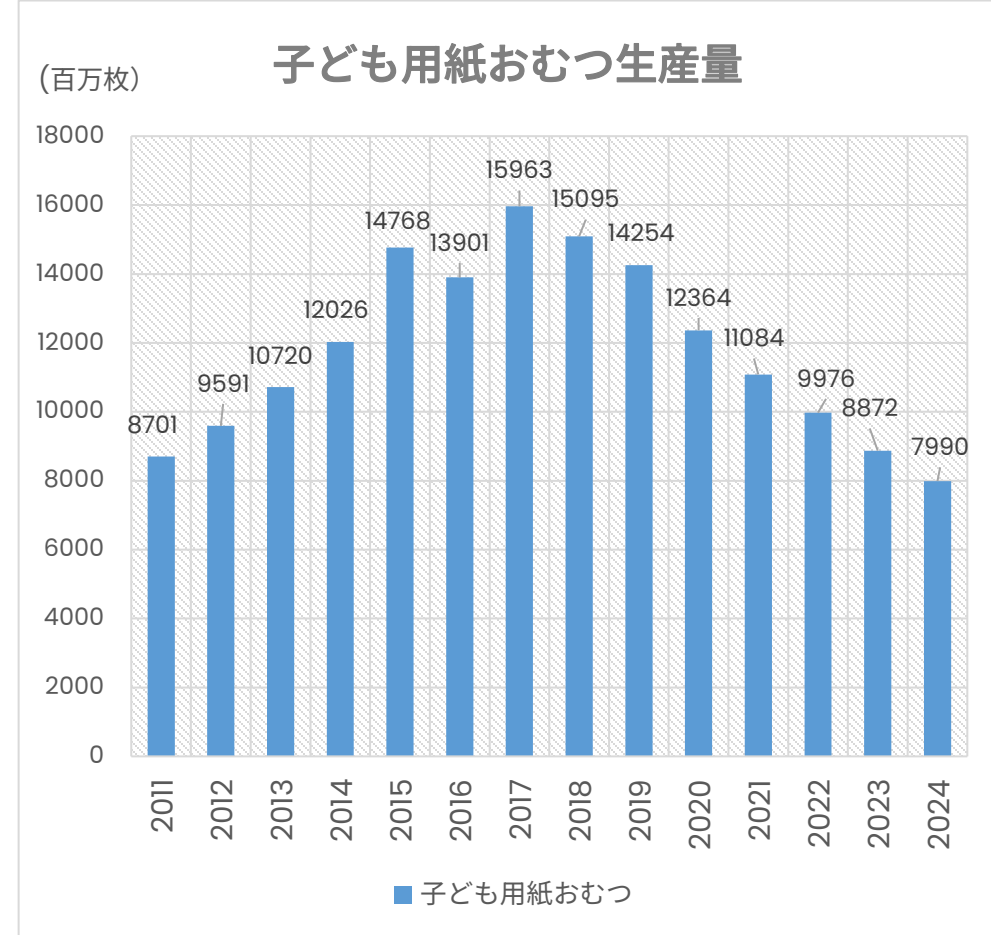
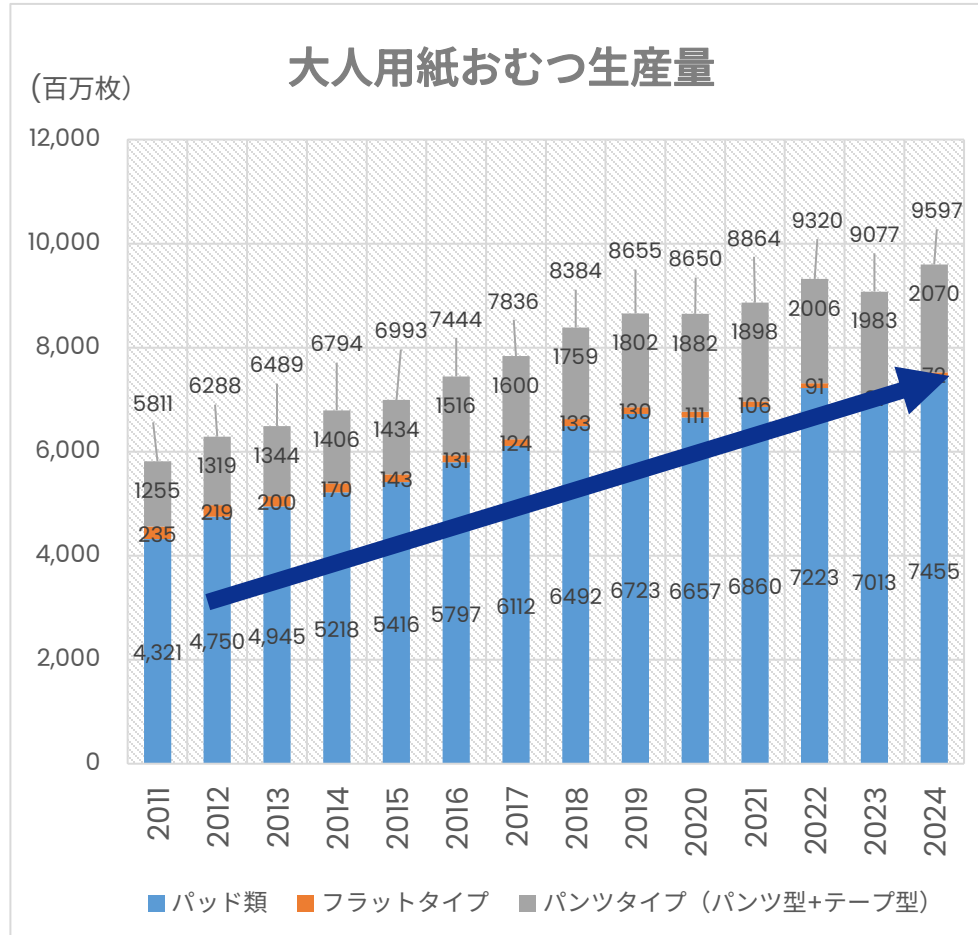
4. リサイクル事業（使用済み紙おむつ燃料化）

保育園や病院、介護施設から出る事業系の使用済み紙おむつを分別収集し、使用済み紙おむつ燃料化リサイクル装置「ZRM-1000/2000」で処理して再生燃料化することで、焼却処理するごみの量を削減します。燃料化した使用済み紙おむつは施設内などで燃料として活用、CO₂排出量を削減します。



4-2. 紙おむつ生産量の推移

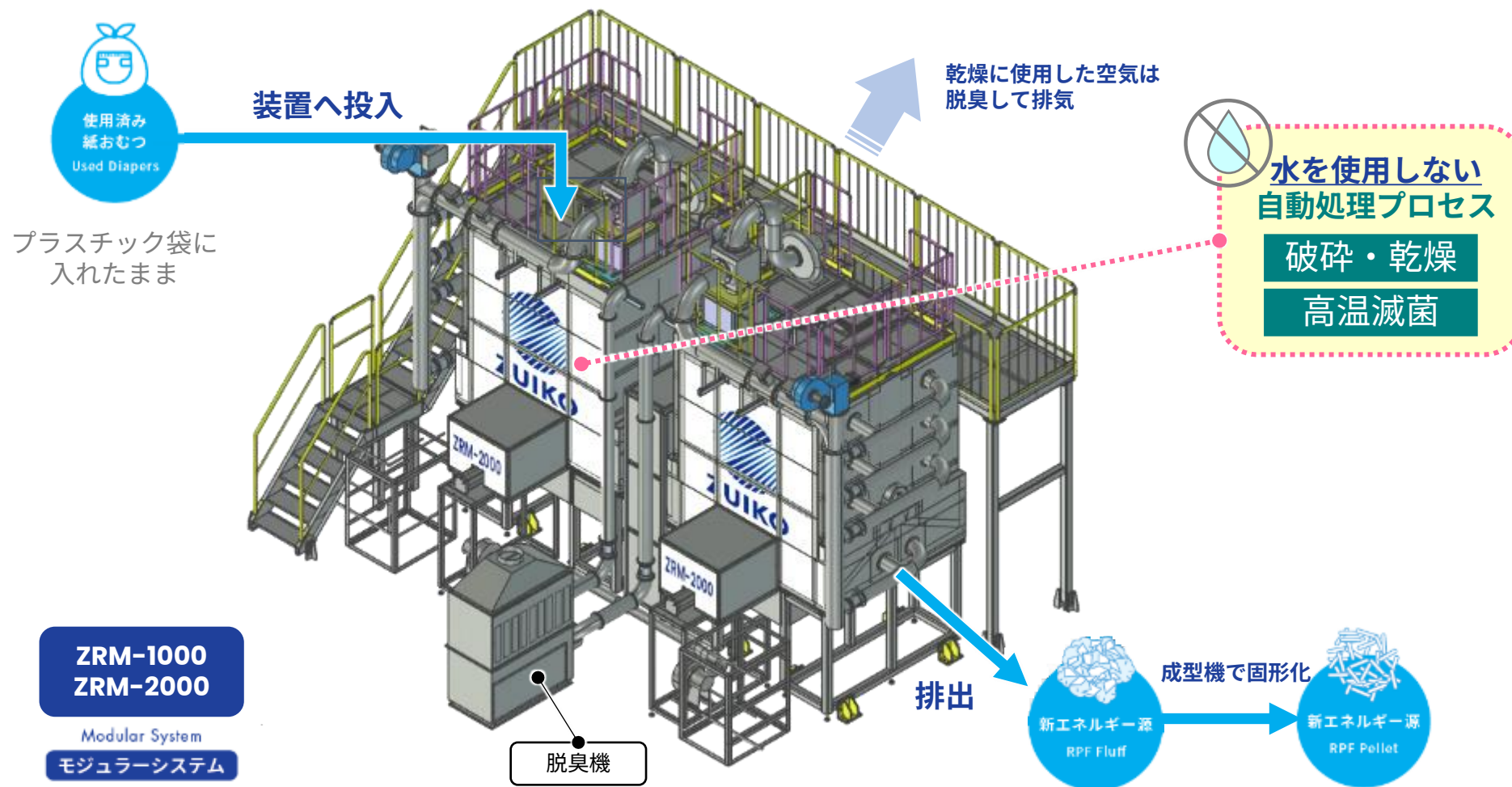
特に大人用紙おむつの使用後にはし尿を吸収して約4倍になり、収集や焼却などに要する費用増加の一つの要因となっています。また、水分を多く含み燃えにくく、**焼却炉へダメージ**を与えているため、修繕維持費用への負担も大きくなっています。（焼却炉1基あたり30～400億の設備導入費）



出典：一般社団法人 日本衛生材料工業連合会 「大人用紙おむつのタイプ別生産数量推移」 および 「乳児用紙おむつの生産数量推移」 より

4-3. ZRMシステムの処理プロセス

使用済み紙おむつをごみ袋に入れたまま装置に投入し、**破碎・乾燥・高温滅菌処理**を自動で行います。処理に水は使用しません。乾燥に使用した空気は、脱臭機で脱臭して屋外へ排気します。自動処理完了後、乾燥により投入量の1/3に減量した綿状の燃料を排出します。綿状の燃料をペレット状に加工することで、バイオマスボイラーなどの燃料として活用することができます。



4-4. ZRMシステムの仕様概要・特徴

◆ 処理容量：1t/回 or 2t/回

- 乾燥処理により、処理後排出される綿・チップ状燃料の重量は、投入量の1/3に減少

◆ 処理時間：16~18時間以下

- 処理時間短縮を目指し、研究開発中

◆ モジュール型

- モジュール化することにより、地域・施設に適した処理容量に対応

◆ 電気ヒーター仕様

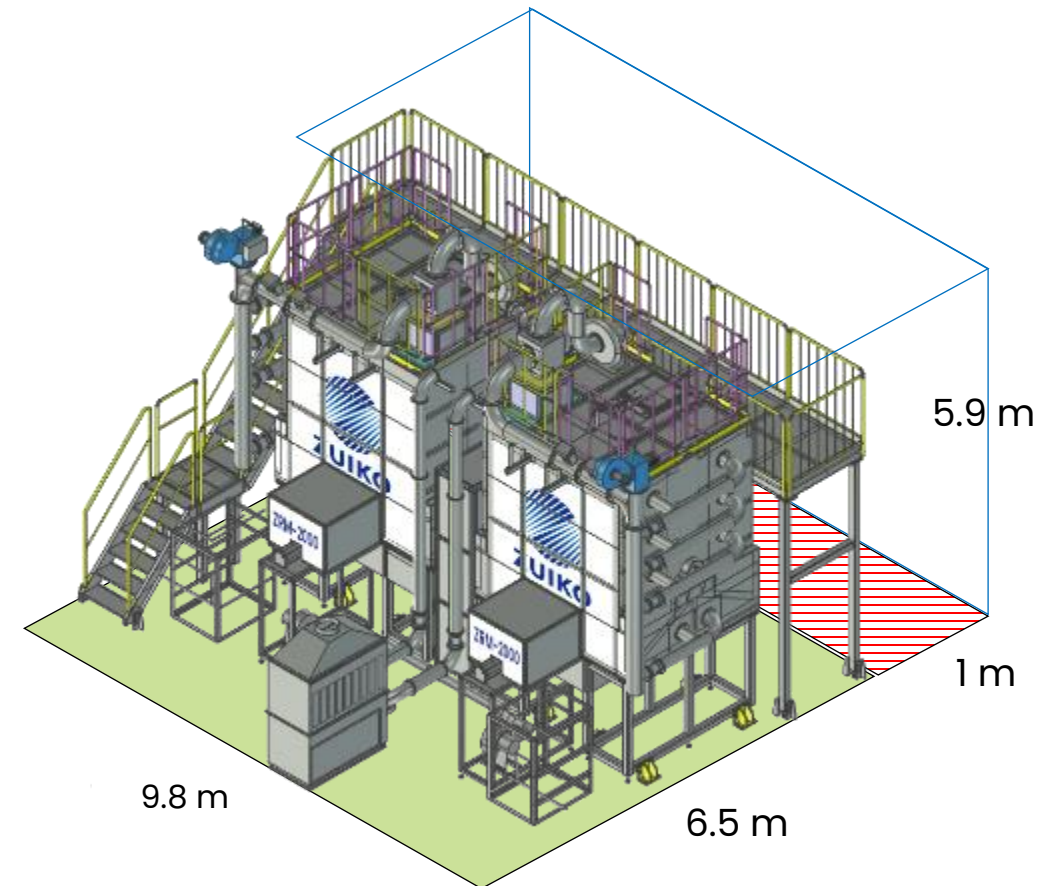
- 熱供給装置をガスバーナーではなく、電気ヒーターにすることで、電気のみで運転可能
- 施設側のガス設備導入費用をカット

※ ガスバーナー仕様も対応可能

ZRM-1000
ZRM-2000

Modular System

モジュラーシステム



燃料リサイクルに最適な新エネルギー

処理前の1/3以下の重量

気にならない臭気

水分は10%未満



低位発熱量は
5,000 kcal/kg

成分も燃料用に適合

十分な減菌能力で
高い安全性

5. 排泄器事業（自動排泄処理装置）

透明の人形を使用して、漏れ等のテスト実施。



5-2. 自動排泄処理装置の生産拠点の概要

製造工場用の土地建物はすでに賃貸借契約を締結済み



6. 防護服事業(カバーオール市場規模と自動化について)

- ・カバーオールガウン全体で、2024年(推定)は67億米ドル、2033年(推定)は105億米ドル (年平均成長率5.3%)
- ・使い捨てのガウンに絞れば、2024年(推定)は25億米ドル、2033年(推定)は45億米ドル (年平均成長率7.5%)
- ・1枚約\$2。
- ・北米とヨーロッパ (約50%)

- ・ **世界初**の全自動カバーオール加工機

主に下記3品目のガウンを製造。

①化学

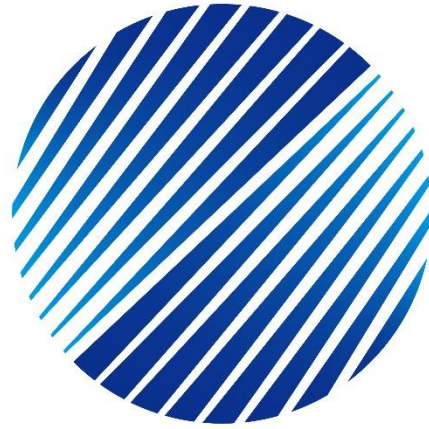
②石油

③半導体産業

それぞれ異なる仕様、資材を計画。



※製品イメージ (実際の製品とは異なります)



ZUIKO

IRに関するお問い合わせ先

株式会社瑞光 経営戦略部

電話：072-648-2215

e-mail：ir-contactus@zuiko.co.jp

本資料に掲載している将来予測に関する情報は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいています。そのため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性があります。